

# 心理ミーティングとエンカウンター・グループの比較検討

comparison psychological meeting with basic encounter group

野島 一彦

跡見学園女子大学

文学部臨床心理学科

Kazuhiko Nojima

Faculty of Letters, Atomi University

## 要 約

筆者は、一方で精神科デイケアにおいてエンカウンター・グループチックな心理ミーティングを25年間（1987年4月～2012年3月：1156セッション）にわたって実践し、それについて学会で毎年発表をしてきた。他方、オーソドックスなベーシック・エンカウンター・グループは、46年間（1970年～2016年：数百セッション）にわたって実践し、研究を続けている。ただこれまでは、両者について比較検討することをしてこなかった。そこで本稿では、①グループ構成、②グループ担当者の機能、③グループ・プロセス、④個人プロセス、⑤効果という視点から改めて両者の比較検討を行った。その結果、両者のそれぞれの特徴が非常に明確になり、比較検討の意義を強く感じた。

【Key Word】 心理ミーティング ベーシック・エンカウンター・グループ 比較検討

## I はじめに

筆者は、精神科デイケアでエンカウンター・グループチックな心理ミーティング（毎週75分間。その前後にプレとポストのミーティングが行われる。二人のグループ担当者と6～7人のメンバーで構成）を25年間（1987年4月～2012年3月：1156セッション）にわたって実践し、それについて学会で毎年発表をしてきた。最初の発表は五十里・市川他（1987）で、最後の発表は野島・牧（2012）である。

オーソドックスなベーシック・エンカウンター・グループ（2～3泊の集中合宿型）で行われることが多い。セッション時間・数は、90～120分間で、6～9セッション。

二人のファシリテーターと10人前後のメンバーで構成。メンバーは公募）は、46年間（1970年～2016年：数百セッション）にわたって実践し、研究を続けている。最初の学会発表は野島（1971）である。修士論文（野島，1972）も博士論文（野島，1998）もエンカウンター・グループを取り上げている。

ただこれまでは、それぞれについて発表をしてきたが、両者について比較検討することをしてこなかった。そこで本稿では、改めて両者の比較検討を行いたい。そうすることで、両者の特徴がより明確になるのではないかと思われる。

## Ⅱ 心理ミーティングとエンカウンター・グループの比較検討

本稿では、①グループ構成、②グループ担当者の機能、③グループ・プロセス、④個人プロセス、⑤効果という視点から両者の比較検討を行う。

### 1. グループ構成

まず両者のグループ構成について比較しよう。ちなみに前者については、野島・岩村他（1993）、後者については野島（1982）に基本的考えが述べられている。

#### （1）目的

前者は、①自己理解、②対人関係の学習、③再発の予防、④社会復帰の心の準備の4つが目的であった。／後者は、①自己理解、②他者理解、③自己と他者との深くて親密な関係の形成が目的である。

前者の③、④が後者との大きな違いである。それは、前者は精神科デイケアにおける統合失調症者を対象としているのに対し、後者は基本的に健康な人を対象としているという対象の違いからそうになっている。

#### （2）グループ担当者

前者は、臨床心理士（CP）である筆者（25年間一貫）と（エンカウンター・グループ体験なしの）看護師、PSW等の医療スタッフ（3か月ごと交代）で担当した。／後者は、筆者が単独であるいは（エンカウンター・グループ体験を有する）もう一人のファシリテーター（共にワークショップ期間中一貫）と組んで担当する。

前者では筆者以外のスタッフが次々と交代する点、エンカウンター・グループ経験がない点が大きな違いである。

### （3）グループ編成

前者は、一定の基準（デイケアに3ヶ月以上参加、自発的な参加申し出、メンバー総数に余裕があること）を満たした6～7人でセミクロードで編成した。／後者は、自発的参加の10人前後でクロードで編成する。

前者ではメンバー選択が行われる点、人数がやや少なめである点が大きな違いである。

### （4）場面設定

前者は、机を敷き詰めてその周りに椅子で座るようにした。／後者は、真ん中には何も置かず車座になって座る。

前者は、机が敷き詰められる点が大きな違いである。机を敷き詰める理由は、統合失調症者にとっては、きちんと相手との間にバリアを置く方が安全感が高まると考えたからである。

### （5）時間設定

前者は、セッションの時間は75分間であった。／後者は、90～120分であることが多い。

前者は、やや短めである点が大きな違いである。その理由は、統合失調症者にとって長めの時間は不安定になりやすいと考えたからである。

### （6）スタッフ・ミーティング

前者は、毎セッションごとに、プレに15分間、ポストに30分間行った。／後者は、ワークショップ期間中に数回行われることが多い。

前者は、かなり丁寧である点が大きな違いである。後者は、連続して2～3日間なので連続性が維持されやすいが、前者は、1週間に1回であり間が空くので、丁寧に

スタッフ・ミーティングを行わないと連続性を維持するのが難しいと考えたからである。

ちなみに前者のポスト・ミーティングの意義については、手嶋・市川他（1991）で発表されている。

## 2. グループ担当者の機能

グループ担当者の役割について、前者は野島・古川（2000）、後者は野島（2000）で基本的考えが述べられている。

前者は、①グループの安全な雰囲気作り、②サポート、③活性化、④プレーキ、⑤フィードバック、⑥タイム・キーピング、⑦新メンバーへのグループのオリエンテーション、⑧理解したことの伝達、⑨絶ち切られた話への再焦点化／後者は、①グループの安全・信頼の雰囲気形成、②相互作用の活性化、③ファシリテーションシッポの共有化、④個人の自己理解の援助、⑤グループからの脱落・心理的損傷の防止。

前者では②サポートを丁寧にしかり入れていく点が大きな違いである。

## 3. グループ・プロセス

前者は、25年間にわたるロングランのグループで、メンバーも次第に入れ替わっている。そのプロセスを概念化することは難しいが、最初の数ヶ月はグループに一定の安定感が生まれるまではモタモタしていたが、それが出来てからは一貫して落ち着いたグループとなった／後者については、村山・野島（1977）の概念化では、段階Ⅰ：当惑・模索、段階Ⅱ：グループの目的・同一性の模索、段階Ⅲ：否定的感情の表明、段階Ⅳ：相互信頼の発展、段階Ⅴ：

親密感の確立、段階Ⅵ：深い相互関係と自己直面。

前者はエンドレス的であり、後者はタイム・リミテッドという構造の違いがグループ・プロセスに反映されており、簡単に比較できないように思われる。

## 4. 個人プロセス

前者は、最長の人には25年間、短い人は数セッションであり、個人プロセスを概念化することは難しい。／後者は、殆どの方がワークショップの全セッションに参加するので概念化しやすく、野島（1983）の概念化では、①「主体的・創造的探索」過程、②「開放的態度形成」過程、③「自己理解・受容」過程、④「他者援助」過程、⑤「人間理解深化・拡大」過程、⑥「人間関係親密化」過程が、導入段階、展開段階、終結段階で変化していく様子が描かれている。

グループ・プロセス同様に、前者はエンドレス的であり、後者はタイム・リミテッドという構造の違いが個人プロセスに反映されており、簡単に比較できないように思われる。

## 5. 効果

効果は、目的の達成度によって評価される。前者の4つの目的は概ね達成されたように思われる。とりわけ、③再発の予防という点では、最長の人には25年間も再発していないし、10年以上再発しなかった人も結構いた。／後者の3つの目的も概ね達成されたように思われる。ただ、後者は個人差が大きく、野球に例えるならば、ある人はホームラン、ある人はヒット、ある人は四

球、ある人は死球といった具合である。

前者は治療、後者は心理的成長を目指していることを考えると、簡単に比較できないように思われるが、それぞれに目的が達成されているという意味では、ともに効果があったと言える。

### Ⅲ おわりに

このたび改めて両者の比較検討を行って見たが、そうすることで一方だけを見ている時よりも、両者のそれぞれの特徴が非常にはっきりと見えてきたように思われ、比較検討の意義を強く感じた。

### 付記

本稿は日本集団精神療学会第33回大会（和洋女子大学）における口頭発表をもとにまとめたものである。

### 文献

- 五十里瑞枝・市川佐栄子・堀部とみ子・野島一彦・牧 聡 1987 デイケアにおける心理ミーティングの導入（第1報）西日本精神保健学会（岡山）
- 野島一彦・村山正治 1977 エンカウンター・グループ・プロセスの発展段階 九州大学教育学部紀要（教育心理学部門），21(2)，77-84.
- 野島一彦 1971 エンカウンター・グループの基礎的研究 日本心理学会（早稲田大学）
- 野島一彦 1972 エンカウンター・グループ

プの臨床心理学的研究 九州大学大学院教育学研究科修士論文

- 野島一彦 1982 エンカウンター・グループ構成論 福岡大学人文論叢，14(1)，1-32.
- 野島一彦 1983 エンカウンター・グループにおける個人過程—概念化の試み 福岡大学人文論叢，15(1)，33-54.
- 野島一彦 1998 エンカウンター・グループの発展段階におけるファシリテーション技法の体系化 九州大学博士論文
- 野島一彦 2000 エンカウンター・グループのファシリテーション ナカニシヤ出版
- 野島一彦・古川富士江・前田秀和・牧 聡 2000 精神科デイケアの心理ミーティングにおけるセラピストのあり方に関する考察 日本集団精神療学会（東京）
- 野島一彦・岩村志麻・前田秀和・牧 聡 1999 精神科デイケアにおける心理ミーティングのグループ構成に関する考察 日本集団精神療学会（東京）
- 野島一彦・牧 聡 2012 精神科デイケアにおける心理ミーティング25年の検討 日本集団精神療学会(明治大学)
- 手嶋千恵子・市川佐栄子・岡本絹子・小林由紀子・牧 聡・野島一彦 1991 デイケアにおける心理ミーティング後の「ポスト・ミーティング」の意義の考察 日本集団精神療学会(名古屋)